

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2016

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2016

会 期：2016年7月16日（土）～7月24日（日）  
 会 場：SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ／彩の国さいたま芸術劇場／  
 こうのすシネマ  
 主 催：埼玉県／川口市／SKIPシティ国際映画祭実行委員会／  
 （特非）さいたま映像ボランティアの会  
 共 催：（公財）埼玉県芸術文化振興財団／こうのすシネマ  
 後 援：総務省／外務省／経済産業省／文化庁／（一社）日本映画製作者連盟／  
 （一社）映画産業団体連合会／（公財）ユニジャパン／  
 （一社）外国映画輸入配給協会／（公社）映像文化製作者連盟／  
 （一社）日本映画テレビ技術協会／（一社）日本映画テレビプロデューサー協会／  
 協同組合日本映画監督協会／協同組合日本映画撮影監督協会／  
 協同組合日本映画製作者協会／全国興行生活衛生同業組合連合会／  
 生活衛生同業組合埼玉県映画協会／（一財）デジタルコンテンツ協会／  
 （特非）映像産業振興機構／NHK／テレ玉／FM NACK5／埼玉新聞社／  
 イタリア文化会館／オーストラリア大使館／中華人民共和国駐日本国大使館／  
 ノルウェー王国大使館／在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本／  
 在日メキシコ合衆国大使館／駐日リベリア共和国大使館／  
 ベルギー王国大使館／在日キルギス共和国大使館／アメリカ大使館／  
 駐日イタリア大使館  
 対 象：映画ファン、文化・芸能好き、高齢者  
 公式サイト：http://www.skipcity-dcf.jp/

総来場者数：52,466人  
 応募参加国と地域数：過去最多88の国と地域から  
 応募作品数：長編部門715本、短編部門146本、アニメーション部門58本の、  
 合計919本

■開催内容

13回目となるSKIPシティ国際Dシネマ映画祭2016は、7月16日（土）～24日（日）の9日間にわたり、埼玉県川口市のSKIPシティほかにて開催されました。

2016年のオープニング作品は、2013年の本映画祭で短編作品『世の中はざらざらしている』がノミネートされた新鋭・熊谷まどか監督の初長編作品となる『話す犬を、放す』を上映。昨年に続き、映画祭実行委員会が主体となって製作しました。ワールド・プレミア上映となった本映画祭での上映には、熊谷まどか監督をはじめ、出演のつみきみほさん、田島令子さん、木乃江祐希さんが登壇し舞台挨拶を行いました。本作は2017年に劇場公開も予定されています。

コンペティション部門には、過去最多となる世界88の国と地域から長編部門715本、短編部門146本、アニメーション部門58本の、合計919本の応募がありました。その中から厳正な審査によって選ばれた長編部門12本、短編部門12本、アニメーション部門12本を会期中に各2回上映。国内外から監督やプロデューサー、出演者らがゲストも多数来場、上映後のQ&Aや舞台挨拶に登壇し映画祭を盛り上げました。

また2年目を迎えた、こうのすシネマ（鴻巣市）、彩の国さいたま芸術劇場（さいたま市）でのサテライト上映は、今年も2日間にわたり開催。短編部門のノミネート12作品に加え、オープニング作品『話す犬を、放す』も上映しました。

その他にも、毎年恒例のシネマ歌舞伎、バリアフリー上映、長編アニメーション上映、さらに関連企画では「カメラクレヨン」、「コバトンTHEムービー」などが行われました。

コンペティション各賞は、長編部門でメキシコから届いたヒューマン・ドラマ『朝日が昇るまで』がグランプリを受賞。短編部門は『嘘について』、アニメーション部門は『こんぶれっくす×コンプレックス』がそれぞれ最優秀作品賞を受賞しました。

■2016年度の新規取り組みとその成果・特色など

2016年の新企画として、赤ちゃん連れでもベビーカーのまま映画を楽しめる「ママ・シアター」を開催。NHKの人気番組を映画化したドキュメンタリー『ベニシアさんの四季の庭』を上映しました。

また、NPO法人映画美学学校との連携企画として、初心者向けの映画制作ワークショップを開催し、参加者全員が個々に監督した短編作品を完成させました。

